



毎秒100ギガビット通信

光ファイバー ケーブル 実用化にめど

トス フク 先端 ニ

先端フォトリソクス(東京都目黒区、重松誠社長、03・5452・5748)は、毎秒100ギガ(ギガは10億)の高速通信規格「EDR(E

ンハンスド・データ・レート)」規格品が「最速。だが次世代のスーパーコンピュータ、ハイパフォーマンスコンピュータのケーブルにはEDR規格品が求められている。重松社長は「世界に先駆けて投入する」としている。同社は年内にもサンプル出荷を始める計画だ。

分に採用。工程の削減によってコストを抑制し、省電力と高速・大容量通信を両立した。EDR規格品はモジュール内の部品配置やコネクタの設計を見直した。光軸を合わせる実装技術を向上し、既存設備で量産技術を確認する。EDR規格品は現在、月産数千本で大手メーカーから受注している。体制を整備するため、8月に日本政策金融公庫の特別融資制度「新事業育成資金」で1億5000万円を調達した。



界団体米IBTAは1チャンネル当たり毎秒25ギガ、4チャンネルで100ギガをEDRの標準速

量産しているEDR規格の光ファイバーケーブルと定めている。先端フォトリソクスはEDR規格の光ファイバーケーブルを製品化している。集光レンズと反射ミラーを使わず電気信号を光信号に変換できるモジュールをコネクタ部分に採用。工程の削減によってコストを抑制し、省電力と高速・大容量通信を両立した。EDR規格品はモジュール内の部品配置やコネクタの設計を見直した。光軸を合わせる実装技術を向上し、既存設備で量産技術を確認する。EDR規格品は現在、月産数千本で大手メーカーから受注している。体制を整備するため、8月に日本政策金融公庫の特別融資制度「新事業育成資金」で1億5000万円を調達した。